令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・デジタル教材や写真資料などを活用して、理解を深められるようにしたことで、知識を問う問題では目標値を上回る領域があった。
- ・ 資料から考えられることについてその都度問いかける学習を積み重ねることにより、高学年では思考力を問う問題の正答率が目標値を上回った。

(2) 課題

【単元内自由進度学習の取組】

・学習形態の工夫(こどもの自己選択・自己決定) どの領域においても学習内容の理解に差がある。自由進度学習を取り入れることで、児童の興味関心や社会的事象の理解度に応じて学習を進める。個に応じて時間をかけて深く学ぶことで、学習への意欲を高める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

今年度の正答率が目標値に対し、+5ポイント以上の場合△、 +5ポイント未満-5ポイント以上の場合≒、-5ポイント未満の場合▼

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽地域や市の様子⇒生産や販売⇒安全を守る働き⇒市の様子の移り変わり		
第5学年	△都道府県の様子 ⇒生活環境を支える活動 △自然災害からくらしを守る活動 △伝統や文化、先人の働き ⇒特色ある地域の様子	⇒地域や市の様子⇒生産や販売⇒安全を守る働き▽市の様子の移り変わり(第4学年時)	
第6学年	▽国土の自然などの様子 ⇒農業や水産業 ⇒工業生産 ⇒産業と情報の関わり △国土の自然環境と国民生活	⇒都道府県の様子▽生活環境を支える活動▽自然災害からくらしを守る活動⇒伝統や文化、先人の働き⇒特色ある地域の様子(第5学年時)	⇒地域や市の様子⇒生産や販売⇒安全を守る働き▽市の様子の移り変わり(第4学年時)

(2) 分析(観点別) ① 中学年

<u> </u>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どの領域も目標値を下回	年表など資料から必要な	興味をもって学習に取り
るか、同じ正答率であった。	情報を読み取り、記述で答え	組むが持続性が低く、途中で
地図記号や工場の仕事の工	る問題の正答率が高い。	あきらめてしまう児童もい
程、生活の道具の変化などに		る。
関する問題の定着率が低い。		

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年では、どの領域も目標	複数の資料をもとに読み	考えることやまとめるこ
値を上回るか、同じ正答率で	取り、判断することができて	とは目標値を上回っている。
あった。	いる。	知識はあるが、すすんで伝え
6年では、ほとんどの領域		合ったりすることに課題が
で目標値を上回るか、同じ正		ある。
答率であった。ただし、知識		
を問われる問題に対する正		
答率は低い。		

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ミニテストやクイズなど	年表資料などの見方を適	自由進度学習を取り入れ、
反復して学習することで、定	宜確認し、読み取ったことを	課題や学び方を自分で選択
着を図る。また、テスト直し	自分の文章として表現でき	して取り組み、それに対して
の際は、資料の見方を丁寧に	るようにする。また、社会的	評価を適宜行うことで学習
説明し、「聞かれていること」	事象を自分事として捉える	への持続性を高める。
と「考えるために必要な資料	ために、生活と関連付けた	
の選択と視点」を一緒に確認	り、大田区の様子と比較した	
する。	りする活動を取り入れる。	

(2) 高学年

知識•技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
同じ領域の学習では、前学	課題について見通しをも	自分の考えや調べたこと
年の内容を振り返り、既習事	って追究させることで児童	を伝え合う機会を増やす。
項の確認や関連を意識させ	が見方考え方を働かせなが	
た授業展開をする。	ら学習に取り組むことがで	
	きるようにする。	